

2008年度 早稲田大学 教育学部

日本史 解答例

I 古代の男性と女性の区別 <易>

- 問1 陳寿 問2 土佐日記 問3 ウ 問4 オ
問5 ウ 問6 イ 問7 ア 問8 エ 問9 イ

早稲田では定番のテーマからの出題。正解を出せないような難問はまったくない。

II 中世・近世の鉱山 <易>

- 問1 イ・オ 問2 ウ 問3 エ 問4 b ⑧ c ② d ⑫
問5 寧波の乱 問6 西陣織

「西陣織」は文化構想学部でも出題されたばかりの用語であった。早稲田では複数の学部を受験して、その問題を十分復習して次の試験に臨むべきだということがよくわかるだろう。受験料を確保したい大学側が、意図的に出題しているとさえ思えてしまう。

III オランダ国王の開国勧告 <やや易>

- 問1 アヘン戦争 問2 風説書 問3 エ 問4 ウ 問5 イ
問6 イ 問7 ア・オ 問8 ウ・エ・オ 問9 ア・エ・オ 問10 イ

問4は難しかったが、フェートン号事件の背景にナポレオン戦争があったことを覚えていた生徒は正解できただろう。年代そのものの出題率は低くても、年代を覚えているからこそ解ける問題は意外と多い。しかし、年代を覚えてうえでそれを意識しながら解くようにならないと、年代を覚える重要性を実感できないところがジレンマである。本当に適切なアドバイスだったら、それを受け容れる姿勢が受験生には求められているのである。

IV 満州事変 <やや易>

- 問1 空欄2 大連 空欄3 長春 空欄4 柳条湖 問2 イ
問3 ア・イ・オ 問4 ア 問5 オ 問6 イ・ウ・エ

早稲田では何度も出題されているテーマだったので、十分に対策をとっていた受験

生とそうでなかった受験生との間で点差が付いただろう。問4や問6を正解できるような学習をしておくべきであった。

V 戦後の雑題 <難>

問1 空欄1 平和の礎 空欄3 小田実 問2 B・D

日頃から新聞やニュースに触れていないと厳しい問題だっただろう。かといって年間を通じて新聞を読み続ける時間はなかなか与えられていない。とくに偏差値を15～30くらい上げなければ合格できないような受験生の場合は、わき目もふらずひたすら勉強に励むべきで、このような問題に振り回されない方が、早大合格には近道だと言える。

講評

例年の教育学部に比べると易しくなっているが、実際にはこれを易しいと感じることができなかった人も多いただろう。要するに早稲田対策を十分にとっていた受験生が喜べる問題が多かったのである。また、ここでは明かせないが、出題パターンの変更も一部見られた。